

# 「 宝本エピソード 」

昨年度、たくさんの方々から、エピソードをいただきました。  
 その中のいくつかを紹介します(鹿児島県立図書館ホームページでも公開中です)。  
 本年度もおやこの心温まるエピソードをお待ちしております。

母		子	<p>【エピソード】</p> <p>以前、夫の仕事の関係で甑島に住んでいた頃、図書館も近くになく、本屋もない中で「こどものとも」を定期購読し、毎月どんな本が届くか楽しみにしていました。この「サンドイッチ サンドイッチ」が届いた時は、ページをめくる度においしそうなおサンドイッチが作られていく様子に親子でワクワクしていました。読むと、サンドイッチを作って公園に持って行って食べていた記憶がよみがえります。すでに成長した息子たちですが、野菜やハム・チーズに卵をはさんだサンドイッチが今でも大好きです。</p>
わたし		弟たち	<p>【エピソード】</p> <p>ぼくが、弟たちに読んだ本です。弟たちは、初めてこの本を読んだとき、とても楽しそうでした。特に、バスでお出かけする場面と最後のページにあるサンタクロースをさがすゲームには、きょう味しんしんでした。たくさん読んであげたので、ぼくは暗記してしまいました。ニコニコする弟たちの顔も、ぼくの宝物です。</p>
わたし		友達	<p>【エピソード】</p> <p>この本は、ぼくに、友達の大切さを教えてくれました。ぼくは、友達とけんかをしてしまったときに、いつの間にか仲直りをしている時があります。「ふたりはともだち」は、二人の友情が書かれています。友達がきずついているときは、ぼくがはげましてあげないといけないなと思いました。</p>
わたし			<p>【エピソード】</p> <p>「Wonder—ワンダー」、このタイトルを見た時、どんな物語なのだろうと気になり、手にとってみました。オーガストという主人公の視点はもちろん、姉や友人などの視点で物語を展開していくところが面白かったです。また、様々な視点からみることで、私が友人とけんかしてしまった時や、悩んでいた時の感情と重なり、私自身の考えを見直すことができた一冊です。自分自身が思っている以上に友人は自分のことを考えてくれたりする。たくさんのお考えを改めて感じることでできた私にとっての宝本です。</p>